

シ ラ バ ス

---

(6年次用)

平成28年度 6年次授業日程表

週	日程	月	火	水	木	金		
	3月28日～4月1日	春 休						
1	4月4日～4月8日	個別計画実習 第Ⅰ期：平成28年4月4日(月)～5月20日(金)						1-1
2	4月11日～4月15日							1-2
3	4月18日～4月22日							1-3
4	4月25日～4月29日						祝日	1-4
5	5月2日～5月6日	実習報告週	祝日	祝日	祝日	(チューターへの 実習状況報告等)	1-5	
6	5月9日～5月13日							1-6
7	5月16日～5月20日							1-7
8	5月23日～5月27日	全人医学/ユニオンレクチャー						
9	5月30日～6月3日	※期間中に健康診断及びマッチング説明会を予定						
10	6月6日～6月10日	個別計画実習 第Ⅱ期：平成28年6月6日(月)～7月15日(金)						2-1
11	6月13日～6月17日							2-2
12	6月20日～6月24日							2-3
13	6月27日～7月1日							2-4
14	7月4日～7月8日							2-5
15	7月11日～7月15日							2-6
16	7月18日～7月22日	祝日	実習報告週(チューターへの実習状況報告等)					2-7
17	7月25日～7月29日	夏 休						
18	8月1日～8月5日	夏 休						
19	8月8日～8月12日	夏 休						
20	8月15日～8月19日	夏 休						
21	8月22日～8月26日	夏 休						
22	8月29日～9月2日	夏 休						
23	9月5日～9月9日	夏 休						
24	9月12日～9月16日							3-1
25	9月19日～9月23日	祝日					祝日	3-2
26	9月26日～9月30日	個別計画実習 第Ⅲ期：平成28年9月12日(月)～10月21日(金)						3-3
27	10月3日～10月7日							3-4
28	10月10日～10月14日							祝日
29	10月17日～10月21日							3-6
30	10月24日～10月28日	発表準備期間/実習報告週			発表会(2日間)			3-7
31	10月31日～11月4日	※11月5日(土)に卒業時OSCE実施(予定)						
32	11月7日～11月11日							
33	11月14日～11月18日	予定：卒試(国試形式) ※期間中2日間						
34	11月21日～11月25日	祝日						
35	11月28日～12月2日							
36	12月5日～12月9日							
37	12月12日～12月16日	予定：卒試(再試) ※期間中1日間						
38	12月19日～12月23日						祝日	
39	12月26日～12月30日							
40	1月2日～1月6日	祝日						
41	1月9日～1月13日	祝日						
42	1月16日～1月20日							
43	1月23日～1月27日							
44	1月30日～2月3日							
45	2月6日～2月10日							
46	2月13日～2月17日							
47	2月20日～2月24日							
48	2月27日～3月3日							
49	3月6日～3月10日							
50	3月13日～3月17日							
51	3月20日～3月24日	祝日						
52	3月27日～3月31日							

**科目名：全人医学**

**場所：大講義室**

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座 (疫学分野) 教授 西尾 久英
	連絡方法	TEL: 078-382-5540 E-mail: nishio@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 職 氏 名	外科系講座 (災害・救急医学分野) /附属病院救命救急科 助教 岡田 直己
	役 職 氏 名	外科系講座 (麻酔科学分野) 准教授 高雄 由美子
	役 職 氏 名	内科系講座 (医療情報学分野) /附属病院医療情報部 准教授 高岡 裕
	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座 (神経発生学分野) 教授 寺島 俊雄
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座 (生化学分野) 教授 中村 俊一
	役 職 氏 名	医学部附属病院 副病院長・看護部長 松浦 正子
担当教員 (学部外)	役 職 氏 名	神戸大学大学院法学研究科 教授 丸山 英二
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア内科 部長 安保 博文
	役 職 氏 名	西本クリニック 院長 西本 隆
	役 職 氏 名	兵庫県スモンの会 会長 春本 幸子
	役 職 氏 名	兵庫県健康福祉部 医監 山本 光昭
学習到達目標	医療の今日的問題とそのアプローチ法を理解する。	
講義の概要・形式	チーム医療, 薬害被害者の悲嘆, 法律家の立場からみた医師活動, 行政の立場からみた医療・保健, 漢方医学, 緩和医療といった医療の今日的問題について講義します。	
講義内容	(1) 薬害 (担当教員: 春本) 医薬品には効果と同時に, 必ず副作用があります。副作用がそれだけに止まらず, 看過できない被害を人体にもたらした場合が薬害です。日本の代表的な薬害であるスモン (キノホルム薬害) を例に, 日本の薬害の歴史, 被害実態, 日本で多発した原因などについて概説し, 日常の診療の中での薬害防止について考えたいと思います。	

講義内容

(2) チーム医療 (担当教員: 松浦)

現在、医療の現場ではチーム医療を推進するためのさまざまな努力がなされています。しかし、ひとくちにチーム医療といっても、その捉え方は多様で、医療従事者間でもその認識にはずれがあり、そのことが、チーム医療を困難にしている要因のひとつになっている場合があります。「チーム医療ということばは、立場や役割の異なる職員が勝手に言っているだけでみんなが同じように捉えていないのではないだろうか。そもそもチーム医療の定義っていうのはきちんとあるのだろうか?」と思われたことはありませんか。そこで、今回、「チーム医療」について改めて整理し、考察してみたいと思います。

(3) 医療・医学における倫理と法 (担当教員: 丸山)

医療事故による法的責任の主要なものとして、①民事責任 (損害賠償責任など)、②刑事責任、③行政上の制裁、について、成立の要件と効果および最近の傾向を解説する。その中で、インフォームド・コンセントの要件や個人情報保護法制の概要も取り上げたい。また、生命倫理の基本原則について触れたあと、臨床研究を行う際に遵守すべき倫理規範・倫理指針について、最近の動きも含めて解説する。

(4) 終末期医療と緩和ケア (担当教員: 安保)

進行癌を患った人は、身体・心理・家族・社会・環境・宗教・生と死への考え方など、各方面でそれ以前にはなかった問題を生じ、生活が損なわれていく。緩和ケア病棟では、患者と家族の生活状況を全体的にとらえたいうえで、実現可能な患者・家族の希望を引き出し、その希望の実現のために障害となっている問題を一つ一つ解決していくか希望や問題を別の形に置き換えるとともに、患者や家族の人間関係を再構築することによって、癌によって損なわれた生活全体を改善することを目指している。今回の講義では、緩和ケアを行う上で必要な考え方を概説した上で、症状緩和の方法・難しい場面でのコミュニケーションのとり方など緩和医療の具体的な技術についてお話ししたい。

(5) わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割 (担当教員: 山本)

わが国の保健医療を取りまく環境の変化として、①疾病構造の変化、②少子高齢社会、③価値観の多様化、④経済の進展・低成長、⑤国際化の進展、⑥情報化の進展、⑦科学技術の進歩、⑧健康危機管理事例の多発について解説したうえで、医師と法律・行政との関わり、最近の保健医療政策の動向について解説する。また、厚生労働省医系技官の役割とその仕事の魅力について紹介したい。

(6) 東洋医学総論 (担当教員: 西本)

漢方医学は、紀元前4世紀頃に中国において編纂された「黄帝内経」という書物にその原型をみるが、その後、中国国内においては中国伝統医学として発展し、それを輸入した日本においては、15世紀頃から「漢方医学」として独自の体系化がなされてきた。その特色は生薬による治療と針灸治療であるが、昨今、西洋医学の発達の一方向で、西洋医学では十分な対応ができない症状や疾患に対して、漢方治療が大きな効果を挙げるものが認知されてきている。講義では、漢方医学の歴史・基礎を解説するとともに、臨床医学としての漢方が、西洋医学に対してどの分野でアドバンテージを持ちえるか、あるいは西洋医学をどのように補完するか、について紹介していきたい。

(7) 消化器内科領域の漢方治療 (担当教員: 岡田)

機能性ディスペプシア、胃食道逆流症、過敏性腸症候群、便秘症といった機能性疾患や、ゲップ・腹部膨満感といった腹部症状は、それらを抱える患者は多く、QOLを損なうものであるにもかかわらず、それらの病態に関する研究はまだ十分でなくその診断法や治療薬は西洋医学の範囲では限られている。漢方治療はそれらの疾患や症状に対して一定の有効性を示しており、QOLを重視する全人的医療において漢方治療を学ぶことは重要である。本講義においては、消化器内科領域の漢方治療に関するEBMを解説するとともに、漢方治療が有効であった症例の提示や、現在取り組んでいる漢方問診票を用いた臨床研究を取り上げる予定である。

<p>講義内容</p>	<p>(8) ペインクリニック領域の漢方治療 (担当教員: 高雄)      麻酔科の業務には周術期の麻酔管理, 術後の全身管理とペインクリニックがある。この内ペインクリニックでは様々な痛みの治療を経験するが, 痛みのメカニズムはまだまだ解明されていない点が多い。特に難治性慢性疼痛では「これをすれば治る!」といった治療法が確立されておらず, 神経ブロック, 薬物, 理学療法を組み合わせた挑戦の日々である。最近われわれはこの難治性疼痛の治療に漢方薬を取り入れてきた。近年, 東西医学の融合の重要性が認識されているが, 日本の漢方医学は6世紀前半に中国からもたらされ日本の国情に合わせて工夫改良され日本独自の発展を遂げ今日に至る。今回の講義では痛みの治療における漢方薬の役割や効果についてのわれわれの取り組みを自験例を中心に紹介する。</p> <p>(9) 神戸の医療史 (担当教員: 寺島)      明治期の神戸の医療史を学ぶことにより医療近代化の過程を学ぶ。</p> <p>(10) 医療革新と基礎研究 (担当教員: 中村)      医学が飛躍的に進歩した今日に於いても有効な治療法が存在せず, 病に苦しむ多くの患者が存在する。進行がんや神経変性疾患に苦しむ患者にとって福音となる根本的治療法の開発が望まれるところである。本講義では革新的な医療を生み出す可能性のある基礎研究を紹介し, 医療の未来を考える。</p> <p>(11) 鍼灸 (担当教員: 高岡)      鍼灸治療とは, 我が国の伝統医学である東洋医学の治療法であり, 生薬を用いた漢方治療と一対をなしている。過去には, 「画一的な治療行為をおこなう西洋医学の欠点」に対して「東洋医学のアドバンテージは, 個人個人の体質に合わせた治療」にあると謳われた事もあったが, 最近では「未病を治す」と言われる。しかしヒトゲノム解析の完了後, ゲノムに記録されている個人の体質情報を利用したテーラーメイド医療 (ゲノム医療) により, 西洋と東洋の医学の方向性は融合しつつある。これらを踏まえて本講義では, (1) 鍼灸治療の起源と各国での医療としての取り扱いの違い, (2) 鍼灸治療とは? (治療器具や理論), (3) 明治維新の医療制度改革と鍼灸 (漢方) および現代での扱い等を解説し, 引き続きゲノム医学の切り口で鍼灸を解析した結果, すなわち (4) 骨格筋に及ぼす鍼通電治療の効果, 特に遺伝子発現への影響と生体への効果を紹介し, (5) 鍼治療について直に触れる機会により, 多面的に鍼灸について学ぶ。</p>
<p>授業における使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)</p>	<p>系統講義では取り上げられなかったテーマから, 今日の日本の臨床医活動にとって特に重要なものを取り上げた。準備学習・復習、関連科目情報等については、授業中に別途指示する。</p>
<p>教科書・参考書等</p>	
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>出欠を重視する。</p>

大講義室 授業科目名 (全人医学)

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	5月23日 (月)	10:10~11:10	薬害	春本
		11:20~12:20	チーム医療	松浦
		13:20~14:20	医療・医学研究における倫理と法 (1)	丸山
		14:30~15:30	医療・医学研究における倫理と法 (2)	丸山
1	5月24日 (火)	10:10~11:10	終末期医療と緩和ケア (1)	安保
		11:20~12:20	終末期医療と緩和ケア (2)	安保
		13:20~14:20	わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割 (1)	山本
		14:30~15:30	わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割 (2)	山本
1	5月25日 (水)	10:10~11:10	東洋医学総論 (1)	西本
		11:20~12:20	東洋医学総論 (2)	西本
		13:20~14:20	消化器内科領域の漢方治療	岡田
		14:30~15:30	ペインクリニック領域の漢方治療	高雄
1	5月26日 (木)	10:10~11:10	神戸の医療史 (1)	寺島
		11:20~12:20	神戸の医療史 (2)	寺島
		13:20~14:20	医療革新と基礎研究	中村
		14:30~15:30	鍼灸	高岡

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	医学教育学分野・総合臨床教育センター 特命准教授 河野 誠司
	連絡方法	E-mail:sjkawano@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
学習到達目標	疾病構造の変化から、多くの診療科が関わるケースが医療現場では増えてきている。複数の診療科が関わる症例を選択し、各々の診療科の専門医が病態の診断ならびに治療法に関して活発に討論し、最善の方法を選択していくまでの過程を学生も参加して学ぶことを目標とする。ぜひ、チーム医療と全人的医療の大切さを学んでいただきたい。	
講義の概要・形式	横断的な症例が選択されており、幅広くさらに高度な知識が要求される。学生にも討論に参加してもらうので、テーマに対して積極的に予習をお願いする。	
講義内容/ 学生へのメッセージ	<p><b>【小児科学】</b> 小児は感染症を主体とした急性期疾患が多いが、慢性的な経過を取る疾患も少なくない。小児腎疾患、中でもIgA腎症は慢性的な経過をとり、一部に腎代替療法を必要とする。本講義では小児慢性腎疾患の一般的経過と予後に関して現状と問題点を踏まえてお伝えする。 ～メッセージ～ 小児期に起こる慢性疾患を理解し、その長期にわたる経過や予後を経過を通じて学んでください。</p> <p><b>【皮膚科学】</b> 乏汗症、無汗症、多汗症などの発汗機能異常症は、皮膚科的疾患のみにとどまらず、全身疾患の主訴になりえることがある。今回の講義では、皮膚科からみた発汗異常の鑑別疾患、内分泌疾患に伴う皮膚症状、脳腫瘍の随伴症状について症例に沿って解説する。 ～メッセージ～ 皮膚は内臓の鏡である。今回は皮膚特有の機能である発汗機能と全身疾患に焦点をあてて講義を行う。</p> <p><b>【精神医学】</b> 激しい精神症状を伴ったCNSループス症例をもとに臨床経過を提示します。他の精神疾患との鑑別や治療について解説します。 ～メッセージ～ 内科疾患における精神疾患、鑑別、治療に対する理解を深めて下さい。</p> <p><b>【食道胃腸外科学】</b> 食道癌の手術治療を通して、胸腔鏡下手術による侵襲の低減だけでなく、合併症予防、早期社会復帰を目指した周術期管理を様々な面から講義する。 ～メッセージ～ 手術の進歩は手技の洗練ではありません。様々な面から周術期管理の重要性を学んでください。</p> <p><b>【眼科学】</b> 悪性リンパ腫は全身に起こりうるが、今回は原発性眼内悪性リンパ腫の症例を通じて、悪性リンパ腫についての一般的な診断および治療について解説する。 ～メッセージ～ 眼科領域から診断されることも多い悪性リンパ腫の診断および治療について理解を深めましょう。</p>	

<p>講義内容/ 学生へのメッセージ</p>	<p><b>【肝胆膵外科学】</b> 1型糖尿病に対する治療法として本邦では1984年より脳死膵(腎)移植が実施されている。膵(腎)移植は手術手技を含め、術前術後の全身管理や合併症対策など周術期管理に高度な専門知識を要する医療であり、治療の際には糖尿病内科医・腎泌尿器科医・腎臓内科医・集中治療医・放射線科医との密接な連携が不可欠である。本講義では、慢性腎不全を伴った1型糖尿病に対し脳死膵腎同時移植を行った1例を提示し、膵臓移植の現状と課題、術前全身管理、実際の手術手技、グラフト静脈血栓症を中心とした術後合併症管理について各分野から最新の知見を含め解説する。 ～メッセージ～ 手術手技を含め内科・集中治療・合併症対策について複合的な知識を要する膵臓移植医療の現状と課題について解説します。</p> <p><b>【心臓血管外科学】</b> 感染性心内膜炎患者は、脳動脈瘤形成から脳出血をきたすことがある。脳出血後の心臓手術は、人工心肺のための抗凝固薬投与による増悪の可能性を考慮しなければならないが、心臓弁の破壊による心不全の進行もあり、脳神経外科・循環器内科・心臓血管外科の連携による集学的治療を要する。各科の視点より講義を行う。 ～メッセージ～ 危機的状況を乗り切るため、各科が連携し施行したそれぞれの専門的治療について講義します。</p> <p><b>【整形外科】</b> 日本人の2人に1人が癌と診断され、そのうち7割に脊椎転移をきたす時代です。病的脊椎骨折に伴う激しい痛みやそれに伴う麻痺を生じることが、極めて悲惨な状態になることを意味します。これら転移性脊椎腫瘍について解説するとともに、最新の放射線治療や内科的治療、さらに癌リハビリや緩和ケアまで神戸大学における取り組みを講義いたします。 ～メッセージ～ 脊椎転移による悲惨な寝たきり状態をなくすために、医学は何ができるのでしょうか？</p> <p><b>【脳神経外科学】</b> 脳卒中の約3/4は脳梗塞であり、その約1/3は心源性脳塞栓である。心源性脳塞栓の患者の70%以上は心房細動を有する。そこで、心房細動についてその病態生理、診断、治療法から、脳塞栓の薬物治療による予防、更に、近年、急速に発展しつつある脳塞栓超急性期の最新治療(tPA静注や血管内治療による再開通療法)について学んでいただきたい。 ～メッセージ～ 高齢者によく見られ、かつ、重篤な脳梗塞をきたす可能性の高い疾患です。しっかり学んで下さい。</p> <p><b>【耳鼻咽喉科頭頸部外科学】</b> 原発性副甲状腺機能亢進症 (PHPT) は高カルシウム血症の原因であるが、副甲状腺の腺腫か過形成かの鑑別は難しい場合もある。当初は腺腫と考え手術を行なったが、再発し後にMEN1型と判明した症例を通してPHPTの診断と治療について述べる。 ～メッセージ～ 高カルシウム血症の原因となる原発性副甲状腺機能亢進症の診断と治療について学んでほしい。</p>
<p>履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)</p>	<p>準備学習・復習、関連科目情報等については、授業中に別途指示する。</p>
<p>教科書・参考書等</p>	<p>各科のプリント</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>出席点</p>

# 平成28年度6年次ユニオンレクチャー講義予定表

講義室:大講義室・A講義室(6/3のみ)

回	月日(曜)/時間/担当	講義項目	関連講座
1	5月23日(月)	小児期発症慢性腎炎の経過と腎代替療法	腎泌尿器科学 腎臓内科学 病理診断学
	15:40~17:10		
	小児科学 忍頂寺 毅史		
2	5月23日(月)	転移性脊椎腫瘍に対する集学的アプローチ	リハビリテーション科 放射線腫瘍科 緩和支援治療科 腫瘍・血液内科学
	17:20~18:50		
	整形外科 西田 康太郎		
3	5月24日(火)	脳出血を合併した感染性心内膜炎患者に対する治療	循環器内科学 脳神経外科学
	15:40~17:10		
	心臓血管外科学 松枝 崇		
4	5月25日(水)	全身疾患と発汗異常症	糖尿病・内分泌内科学 脳神経外科学
	15:40~17:10		
	皮膚科学 福永 淳		
5	5月27日(金)	食道癌手術治療から学ぶ最新の周術期管理	歯科口腔外科学 リハビリテーション科 麻酔科・集中治療部
	15:40~17:10		
	食道胃腸外科学 中村 哲		
6	5月30日(月)	激しい精神症状を呈したCNSループスの1例	免疫内科学
	15:40~17:10		
	精神医学 毛利 健太郎		
7	5月31日(火)	原発性副甲状腺機能亢進症の診断と治療	糖尿病・内分泌内科学
	15:40~17:10		
	耳鼻咽喉科頭頸外科学 大月 直樹		
8	6月1日(水)	1型糖尿病に対する膵臓移植の現状と課題	糖尿病・内分泌科学 腎泌尿器科学 腎臓内科学 放射線医学
	15:40~17:10		
	肝胆膵外科学 浅利 貞毅		
9	6月3日(金)	悪性リンパ腫 ~診断および治療~ (※A講義室)	脳神経外科学 血液腫瘍内科学
	14:00~15:30		
	眼科学 三木 明子		
10	6月3日(金)	心房細動による脳塞栓と急性期脳血管再開通療法 (※A講義室)	循環器内科学 神経内科学
	15:40~17:10		
	脳神経外科学 細田 弘吉		

## 科目名：個別計画実習

区 分	内 容	
学習指導教員 (チューター)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野教授・准教授(別表のとおり)
	備 考	※学生個々のチューターは5年次に決定する。 ※チューターは、個々の学生が計画する実習内容を、大局的な観点から個別に相談・承認・確認し、その実習計画に関して責任を有する。
学習指導教員 (個別計画実習担当教員)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野実習担当教員
	備 考	※各分野の実習担当教員は、学生が実習計画を策定するにあたり、各実習期において自科(分野)の実習を希望する学生に対して、その具体的な実習内容・実習先に関する情報提供や相談を行う。また実習協力病院に対して実習受入依頼を行い、時期毎の実習受入可能人数等を調整する。神大病院における実習時は、実習を担当する教員の代表として学生に対応する。
学 習 目 標	<p>本実習は、学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施するものである。臨床実習のみならず研究室や海外での実習も対象とし、個々の学生に対して臨床関係の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容を吟味し指導を行う。</p> <p>臨床実習では、5年次に行ったBSL(Bed Side Learning: 大学病院の全臓器別診療科を回り幅広い臨床経験を積む実習)とは異なり、医療チームの一員として診療に積極的に参画する臨床・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床実習を目標とする。</p> <p>海外の実習では、外国での臨床実習または研究を通じて、異文化交流を深め、国際的な視野の獲得に勤めることを目標とする。</p> <p>研究実習では、基礎研究に加えて臨床研究も対象とし、最先端の医学に触れ、サイエンスへの探究心を育むことを目標とする。</p>	
実 習 の 形 式	<p>実習期間を大きく次の3つの期間(実習期)に分ける。</p> <p>第Ⅰ期：平成28年4月 4日(月)～ 5月20日(金)</p> <p>第Ⅱ期：平成28年6月 6日(月)～ 7月22日(金)</p> <p>第Ⅲ期：平成28年9月12日(月)～10月28日(金)</p> <p>原則として実習期ごとに異なる実習目的(実習分野)を掲げることとし、各期において設定した実習目的に基づき、個々のチューターと相談しながら実習計画を策定・実施する。各期において実習報告日を設け、実習状況を報告・確認するとともに、全実習終了時には実習内容に関する発表会を行う。</p>	
臨床実習について	<p>実習協力病院に対して実習を依頼し、実習協定書を取り交わす。</p> <p>あわせて「臨床実習の手引き」を作成・送付する。</p>	
成績評価方法	<p>各チューターが、担当する学生の全期を通じた評価を行う。</p> <p>チューターは、各実習先における指導責任者の評価や、各期実習報告時の面談等における評価、自己評価及び発表会における評価等に基づき可否を判定する。</p> <p>発表会における優秀者は、卒業証書授与時に表彰する。</p>	

【別表】チューター一覧(H28)

教員名	教育研究分野名	職名
平田 健一	循環器内科学	教授
山下 智也	循環器内科学	准教授
西村 善博	呼吸器内科学	特命教授
森信 暁雄	免疫内科学	准教授
梅垣 英次	消化器内科学	特命教授
豊永 高史	消化器内科学	准教授
小川 渉	総合内科/糖尿病・内分泌内科学	教授
高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	准教授
西 慎一	腎臓内科学	教授
苅田 典生	神経内科学/総合臨床教育センター	特命教授
南 博信	腫瘍・血液内科学	教授
向原 徹	腫瘍・血液内科学	特命准教授
松岡 広	腫瘍・血液内科学	准教授
岩田 健太郎	感染治療学(感染症内科)	教授
小西 淳也	放射線医学	特命准教授
山口 雅人	放射線医学	准教授
杉本 幸司	血管内治療センター(放射線)	特命教授
飯島 一誠	小児科学	教授
森岡 一郎	小児科学	特命教授
池田 真理子	小児科学	特命准教授
曾良 一郎	精神医学	教授
平井みどり	薬剤学	教授
掛地 吉弘	食道胃腸外科学	教授
具 英成	肝胆膵外科学	教授
眞庭 謙昌	呼吸器外科学	教授
尾藤 祐子	小児外科	特命准教授
酒井 良忠	整形外科/リハビリテーション機能回復学	特命教授
甲村 英二	脳神経外科学	教授
中村 誠	眼科学	教授
丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	教授
大月 直樹	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	准教授
藤澤 正人	腎泌尿器科学	教授
寺師 浩人	形成外科学	教授
橋川 和信	形成外科学	准教授
西山 隆	災害・救急医学	特命教授
溝渕 知司	麻酔科学	教授
高雄 由美子	麻酔科学	准教授
木澤 義之	先端緩和医療学	特命教授
伊藤 智雄	病理診断学/病理部・病理診断科	教授
河野 誠司	医学教育学分野/総合臨床教育センター	特命准教授
楠 信也	地域医療ネットワーク学	特命教授
岡山 雅信	地域医療教育学	特命教授